

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990100313		
法人名	(株)イービーエーサービス		
事業所名	グループホームおおさとの憩		
所在地	山梨県甲府市大里町3375-1		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成26年2月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

甲府の歴史と文化を合わせもつ「おおさとの憩」の周辺環境は静かな住宅街に位置し、登下校時、子供達の元気な声が聞えて来ます。天気の良い日は、中庭を散歩、日光浴など入居者の憩の場となっています。利用者が人生を楽しく、自分らしく、生き生きと生活出来る場所です。地域密着の特性を生かし地域行事に積極的に参加して近隣の皆様と交流を図り親睦を深めております。介護付有料老人ホームと併設し毎年夏祭りや年間行事では合同で実施し、地域の方々を招いて交流を深めております。明日が待ちどろしく、生き生きと暮らせる空間があります。職員の研修や各種委員会を毎月実施し、スキルアップした介護を提供しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

閑静な住宅地の中にある2ユニット平屋の事業所である。中庭を挟んで介護付有料老人ホームがある。松・梅・もくれん・もみじなどの植木がある中庭と広い敷地は利用者の精神的な落ち着きを得られる場所となっている。牛乳や新聞配達・ヤクルトの販売・マッサージの訪問があり、実習生や多種多様のボランティアなど大勢の人の訪問によって事業所内が活性化出来ている。事業所独自で作上げた理念「笑顔の和」「地域の輪」「言葉の愛」に沿った支援を行っている。職員の心のケアとして「心の相談窓口」というホットラインがあり24時間相談に対応する会社のシステムがある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームおおさとの憩

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、会社統一の理念と事業所独自の理念があり、身体拘束廃止委員会からの介護の5か条を目につく所に掲示し、申し送り後職員で唱和し意識確認をしている。	理念は、会社統一の理念と事業所独自の理念があり、身体拘束廃止委員会からの介護の5か条を目につく所に掲示し、申し送り後職員で唱和し意識確認をしている。	理念「笑顔の和」「地域の輪」「言葉の愛」に沿って支援している。地域の人がいづつでも出入り出来る様に心がけている。職員がいつも笑顔で、言葉遣いも穏やかで心にゆとりを持って支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設行事に地域の方を招待して交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設行事に地域の方を招待して交流を深めている。	地域の運動会や年4回のふれ合いサロンなどに参加している。事業所の夏祭りには250名の参加があった。保育園児の訪問もあり、お礼に折り紙でプレゼントを作った。。日常的に買い物や散歩などで交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の側溝掃除や、公園の草取りなどの奉仕活動に参加して、近隣の方々との関わりを大切にして認知症の理解を深めている。	地域の側溝掃除や、公園の草取りなどの奉仕活動に参加して、近隣の方々との関わりを大切にして認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施日の案内文を家族に発送して参加をお願いしている。入居者様も参加していただき意見交換をし、議題を決め家族や職員、推進員との意見交換している。	運営推進会議実施日の案内文を家族に発送して参加をお願いしている。入居者様も参加していただき意見交換をし、議題を決め家族や職員、推進員との意見交換している。	2か月に1回開催している。利用者も自由に参加している。「～を食べに行きたい」という意見をフォーア会議で話し合い、ドライブしながら食事をした。事故のヒヤリハットについて参加者の意見を聞きケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当、地域包括支援センター職員と連携を密に取り、情報の共有、指導を仰ぎ交流を深めている。	市町村担当、地域包括支援センター職員と連携を密に取り、情報の共有、指導を仰ぎ交流を深めている。	運営推進会議録と共におおさと新聞やブログを印刷して市に持参して、事業所の取り組みなどを知らせている。地域包括支援センターにベッドの空き情報を伝えたり、わからない事は気軽に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、入居者様のケアの見直しや身体拘束、言葉の虐待をしないケアに取り組んでいる。行動制限しないで生活できるように心掛けている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、入居者様のケアの見直しや身体拘束、言葉の虐待をしないケアに取り組んでいる。行動制限しないで生活できるように心掛けている。	会社の介護の心得5か条「身体拘束はしない」「ネグレクトはしない」「言葉の暴力はしない」「身体的虐待はしない」「自由を奪わない」を唱和してからケアに入っている。日常的に言葉遣いには注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンス委員会は1年間の議題があり身体拘束廃止委員会、リスクマネジメント委員会を設置し、職員の意識を強化し研修や勉強会を実施している。	コンプライアンス委員会は1年間の議題があり身体拘束廃止委員会、リスクマネジメント委員会を設置し、職員の意識を強化し研修や勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。	内外での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時には、双方で確認しながら納得がいくように説明している。	入居契約時、改定時には、双方で確認しながら納得がいくように説明している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、年2回開催し家族の思いを反映できる努力をしている。家族、来客者に職員の顔と名前が一致できるように、玄関に顔写真を貼りコミュニケーションを取りやすいよう努力している。	家族会は、年2回開催し家族の思いを反映できる努力をしている。家族、来客者に職員の顔と名前が一致できるように、玄関に顔写真を貼りコミュニケーションを取りやすいよう努力している。	面会時は担当職員が声をかけて気軽に話が出るように心配りしている。毎日ブログを更新するよう努力して事業所の様子を知らせている。家族の書き込みも自由に出る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や家族会、夏祭りなどの行事に代表者が参加し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回の全体会議や家族会、夏祭りなどの行事に代表者が参加し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は管理者に何でも言える。また、職員の悩みを聞く会社直通のホットライン「心の相談窓口」があり、24時間相談出来る。職員の年齢層が高いが元気に働き、若い職員の目標とされ、良い人間関係が作られている。職員の定着率が高い	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。 給与等に関しては、賞与の人事考課の整備をしている。	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。 給与等に関しては、賞与の人事考課の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が率先して研修に参加出来るように支援し、外部研修で学んだことを内部での研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。	職員が率先して研修に参加出来るように支援し、外部研修で学んだことを内部での研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に担当を決め、本人・家族等の信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。	入居者に担当を決め、本人・家族等の信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用できるよう努力している。	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来ることやしたいことを中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来ることやしたいことを中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族には、事業所内での生活状態を‘大里新聞’として行事・連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。 また、家族と共に支援している。	毎月ご家族には、事業所内での生活状態を‘大里新聞’として行事・連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。 また、家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を聞いて、外食、ドライブ、いちご狩り等地域とのつながりを持ち、利用者の趣味・趣向を取り入れ広く機会を提供している。	利用者の希望を聞いて、外食、ドライブ、いちご狩り等地域とのつながりを持ち、利用者の趣味・趣向を取り入れ広く機会を提供している。	月1回の利用者アンケートの希望を計画に取り入れている。趣味として習字やラジオ体操・俳句を作っている。俳句は「もくれん会」として新聞に投稿し利用者の励みになっている。作品は各自の部屋にも飾ってある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂くよう工夫し、行事食や中庭でのお茶会などをして利用者同士が関わり合いを多くし、共同生活が支え合えるよう支援している。	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂くよう工夫し、行事食や中庭でのお茶会などをして利用者同士が関わり合いを多くし、共同生活が支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている。	退去後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向を汲み取り、職員間で共有し介護計画に盛り込み利用者全員から「出来ることやしたいこと」等の希望を聞いて対応するよう努力している。	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向を汲み取り、職員間で共有し介護計画に盛り込み利用者全員から「出来ることやしたいこと」等の希望を聞いて対応するよう努力している。	ほとんどの利用者から思いや意向が把握出来る。思いを伝えられない利用者には言葉かけの工夫をしたり、表情や態度から思いを察するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。また以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。また以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ベースを維持し、心身状態の把握に努めている。	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ベースを維持し、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員・本人・家族の意見を介護計画に反映できるようにしている。本人のADLに合わせ、サービスの見直しをして、サービスの追加・変更を行っている。	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員・本人・家族の意見を介護計画に反映できるようにしている。本人のADLに合わせ、サービスの見直しをして、サービスの追加・変更を行っている。	面接記録・アセスメント表・実践記録・モニタリング表・支援経過などの記録と共に利用者・家族・担当職員の声聞きフロア会議の意見も加えて計画作成者が介護計画を作成している。3か月毎に見直し、状況に応じて都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ベースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実践を評価し、次の計画プランに活かしている。	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ベースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実践を評価し、次の計画プランに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の要望等に対応するよう努め、通所リハビリテーションや市・県のボランティア、包括支援事業所等、様々なサービスを組み込み、家族の協力を得ながらその時々に必要なニーズに取り組んでいる。	入居者、ご家族の要望等に対応するよう努め、通所リハビリテーションや市・県のボランティア、包括支援事業所等、様々なサービスを組み込み、家族の協力を得ながらその時々に必要なニーズに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き、積極的に参加し施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き、積極的に参加し施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は月2回入居者の往診をしているが、その他に地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	内科医は月2回入居者の往診をしているが、その他に地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	今まで通院していた馴染みの医者は家族が受診に付添っている。その時は看護師が現場でまとめた記録を家族に渡している。受診結果は家族からの報告後、記録し職員間で共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報共有し医療分野において相談できる環境を作っている。早期対応を心掛けている。	介護職は様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報共有し医療分野において相談できる環境を作っている。早期対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に対し、入院時の情報の提供を出来るだけ詳細に行っている。また、入院者に対して定期的に様子観察するために病院へ伺い情報交換している。	協力医療機関に対し、入院時の情報の提供を出来るだけ詳細に行っている。また、入院者に対して定期的に様子観察するために病院へ伺い情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供できる環境作りに努めている。	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供できる環境作りに努めている。	看取りケアの指針があり、看取りについての受け入れは可能である。入所時には説明して家族の同意を得ている。しかし、最終的には家族の意向が最重要という思いで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に消防署の協力により応急処置の研修を受けている。各居室に個々のマニュアルを掲示し、緊急に活用している。	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に消防署の協力により応急処置の研修を受けている。各居室に個々のマニュアルを掲示し、緊急に活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、南消防署に依頼し、避難訓練を行っており、地域の方・民生委員・地区組長に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練も実施している。	年2回、南消防署に依頼し、避難訓練を行っており、地域の方・民生委員・地区組長に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練も実施している。	年2回の避難訓練時で救急法も学んでいる。夜間については、夜勤者2名の役割を決めてある。災害時は事業所の広い敷地や建物などが地域の避難場所に提供出来る。地域とはお互いに助け合う関係である。	消防署に協力を依頼する大掛かりな避難訓練の他に、夜勤をする職員が一人ずつ訓練を経験出来る様に、夜間を想定した訓練の実施回数を増やす事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をしその方の人格を尊重して心のケアに努めている。	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をしその方の人格を尊重して心のケアに努めている。	介護職員としてのマナー研修を定期的に実施している。マナー研修は会社の本部から講師が来て、いろいろな事例に対してのグループワークを行っている。職員は利用者と同じ気持ちになって適切なケアをする姿勢で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の担当職員がその方の思い・希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境作りをしている。	入居者の担当職員がその方の思い・希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いや希望を大切に、自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。	入居者の思いや希望を大切に、自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者に職員がお化粧や整髪して生活に活力がでるように努力している。	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者に職員がお化粧や整髪して生活に活力がでるように努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、その方の能力に合わせて支援し献立表の記録は、入居者が毎日書いている。	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、その方の能力に合わせて支援し献立表の記録は、入居者が毎日書いている。	献立表は会社の本部の管理栄養士が作成しているが、月数回は利用者の希望を入れて変更する場合もある。食材は一括購入であるが、おやつは利用者と買い出しに行っている。利用者は食事についてとても美味しいと話している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立があり、それに添って食事の提供を行い、また行事などで入居者の希望を聞いて提供し、水分については日中・夜間時の水分、食事量をチェックしている。	栄養士の作成した献立があり、それに添って食事の提供を行い、また行事などで入居者の希望を聞いて提供し、水分については日中・夜間時の水分、食事量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は実施して頂き、介助が必要な方については、職員が毎食後口腔ケアを行っている。また内容についても、歯科医と連携をとり、意識の向上に努めている。	自分で出来る方は実施して頂き、介助が必要な方については、職員が毎食後口腔ケアを行っている。また内容についても、歯科医と連携をとり、意識の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄してもらう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、おむつやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄してもらう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、おむつやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	夜間はポータブルトイレ使用の利用者もいるが、昼間は立ち上がるなどの行動を起こした時に声をかけて誘導している。個別の排泄パターンを掴んで利用者全員トイレでの排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩の声掛け、体操の時間を定期的に作ることで、便秘の防止に努めている。また、食事内容、おやつ等も工夫している。	散歩の声掛け、体操の時間を定期的に作ることで、便秘の防止に努めている。また、食事内容、おやつ等も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時、足浴しながら体を洗って浮腫対策をしている。夏・冬の入浴内容を入居者に確認してもらいながら楽しんでいる。	出来る限り入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時、足浴しながら体を洗って浮腫対策をしている。夏・冬の入浴内容を入居者に確認してもらいながら楽しんでいる。	浴槽は両側から使えるように工夫された設置になっている。入浴剤も3種類用意され利用者が選んで香りを楽しんでいる。入浴拒否の利用者は言葉かけの工夫などいろいろな方法を考え支援している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況に即した就寝をして頂ける様、寝る前にお茶を飲みながらテレビ鑑賞などをして介護者が就寝の介助に努めている。	生活状況に即した就寝をして頂ける様、寝る前にお茶を飲みながらテレビ鑑賞などをして介護者が就寝の介助に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一元的に管理し、薬の内容については全体会議や研修を通し知識の習得に励んでいる。服薬については、服薬チェック体制を強化し誤薬防止マニュアルを作成し職員全体で取り組んでいる。	看護師が一元的に管理し、薬の内容については全体会議や研修を通し知識の習得に励んでいる。服薬については、服薬チェック体制を強化し誤薬防止マニュアルを作成し職員全体で取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。入居者の嗜好調査をし、喜んで頂ける様心掛けている。	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。入居者の嗜好調査をし、喜んで頂ける様心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の内容によりボランティアの方の受け入れで同敷地内の有料老人ホームと連携して入居者が外気浴が多くできる様支援し、シフトの調整を図りお風呂、いちご狩り、外食、出前など希望に沿う様、努力している。	行事の内容によりボランティアの方の受け入れで同敷地内の有料老人ホームと連携して入居者が外気浴が多くできる様支援し、シフトの調整を図りお風呂、いちご狩り、外食、出前など希望に沿う様、努力している。	年間行事計画書が作成してあり、計画的な外出支援が出来ている。広い中庭には、梅・もくれん・松・もみじなどの植木があり、散歩の楽しみになっている。また、ユニット毎のテラスで庭を見ながら外気浴が出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者のみ財布を持ち、買い物や外出時に支払っている。その他の入居者は、施設が立替をし、必要な品を買う環境の提供をしている。	金銭管理ができる入居者のみ財布を持ち、買い物や外出時に支払っている。その他の入居者は、施設が立替をし、必要な品を買う環境の提供をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る環境にあり、家族からの手紙、電話を取り次いでいる。入居者の心身状況に沿って支援している。	電話が出来る環境にあり、家族からの手紙、電話を取り次いでいる。入居者の心身状況に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や入居者の方々の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など植えて季節を感じてもらったり、テラスで過ごしたりしている。	行事の写真や入居者の方々の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など植えて季節を感じてもらったり、テラスで過ごしたりしている。	広々としたリビングは、和式風・洋式風と各ユニットの雰囲気合った装飾品が使われている。キッチンリビングにつながっており利用者が気軽に調理参加出来る。テラスにはゆったりと外気浴が出来る様に椅子が用意されてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りこなれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間を作るとともに、テラスから畑や中庭の花々を見て癒しとなるように工夫している。	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間を作るとともに、テラスから畑や中庭の花々を見て癒しとなるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気が出るように工夫している。家族の希望があれば宿泊もできる体制になっている。	馴染みのある物を置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気が出るように工夫している。家族の希望があれば宿泊もできる体制になっている。	ユニットは、それぞれ畳部屋の和式とフローリングの洋式に分かれている。個々の利用者がそれぞれの好みで室内の装飾をしている。習字・俳句・手芸品など自分の作品が飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、個人の部屋が認識できる様工夫している。安全に生活ができるように共有部分の整理整頓に気を配っている。	トイレ、浴室、個人の部屋が認識できる様工夫している。安全に生活ができるように共有部分の整理整頓に気を配っている。		